

---

カメセミナーS-1

## 日本における淡水ガメ(イシガメ科, スッポン科)の化石記録

平山 廉 (早稲田大学 国際教養学部)

Fossil records of fresh-water turtles (Famiy:Geoemydidae and Trionychidae) in Japan.

Ren HIRAYAMA (School of International Liberal Studies, Waseda University)

---

日本国内では、現生の淡水ガメ(イシガメ科とスッポン科)の化石が北海道から沖縄県まで29道府県において確認されている。福井県勝山市の前期白亜紀(約1億1000万年前)から見つかったスッポン科は、本科の世界最古の化石記録である。

国内のイシガメ科の化石記録は古第三紀始新世(約4500万年前)に溯る。長崎県佐世保市の漸新統(約2500万年前)から見つかったイシガメ科には、*Malayemys*など東南アジアの現生属との類縁関係が認められる。漸新世ではスッポンモドキ科も普通であった。岐阜県美濃加茂市の前期中新統(約1900万年前)からは、ヤマガメ属(*Geoemyda*)と思われる小型のイシガメ科が確認されている。スッポン科は、古第三紀始新世(約4500万年前)から前期中新世にかけて最大甲長1mに達する大型のハナスッポン属(*Rafetus*)が卓越していた。

日本海の形成が開始された前期中新世(約1600万年前)の西南日本には、*Ocadia tanegashimaensis*など大型のハナガメ属とハナスッポン属が淡水ガメとして優先的であったが、これは日本が島嶼化していたことと関連する可能性がある。岩手県や秋田県の前期中新統から見つかったイシガメ科の分類は今後の検討課題である。なお中新世中期から後期にかけて国内の淡水生カメ類化石は未確認である。

鮮新・更新統(約300万年前以降)からは、大型のニホンハナガメ(*O. nipponica*)や小型のヤベイシガメ *Mauremys yabei*が関東以西で普通に産出する。スッポン現生種 *Pelodiscus sinensis*は、大分県や三重県の鮮新統で初めて産出するが、更新統では縄文時代まで化石記録の空白がある。更新世の裂罅堆積物からは、絶滅種ミヤタハコガメ(*Cuora miyatai*)が産出する。本土では、ニホンイシガメ(*M. japonica*)以外のイシガメ科は後期更新世のおそらく最終氷期中に絶滅した可能性が高い。なおニホンイシガメは、縄文時代まで確実な化石記録がない。クサガメ(*Chinemys reevesii*)は歴史時代の遺跡からも未確認である。